

令和4年度

第2回
庄内町総合教育会議

議 事 録

令和5年2月21日

庄内町教育委員会

令和4年度 第2回 庄内町総合教育会議 議事録

- 1 会議日程 令和5年2月21日（火）
開会 午後3時00分
閉会 午後4時25分
- 2 会議場所 庄内町役場 A棟 庁議室
- 3 内 容
1 開 会
2 あいさつ
3 協 議
(1) 教育行政にかかる課題について
(2) その他
4 閉会
- 4 出席者（構成員） 庄内町長 富樫 透
教育長 佐藤 真哉
教育委員会委員 梅木 均（教育長第一職務代理者）
教育委員会委員 太田ひろみ（教育長第二職務代理者）
教育委員会委員 齊藤 雅子
教育委員会委員 飯刈 義晃
(職員) 総務課長 佐藤 美枝
(事務局) 社会教育課長 樋渡 真樹
教育課長補佐兼教育総務係長 佐藤 正芳
社会教育課長補佐 阿部 浩
教育課指導主事 齋藤 希望
教育課指導主事 富山 裕二
教育課主査兼学校教育係長 渡部 恵子
教育課主査兼教育施設係長 日下部洋一
教育課主査兼学校給食共同調理場所長 樋渡 康晴
社会教育課主査兼社会教育係長 齋藤 克弥
社会教育課主査兼図書館長 佐藤 晃子
- 5 欠席者（構成員） 教育課長 佐藤 秀樹
- 6 傍聴人 なし

開 会	(午後3時00分)
町長	(あいさつ)
教育課長補佐	本日の協議議題は、教育行政にかかる課題についてです。一点目は「庄内町の子育てについて」、二点目は「若い世代のモラルの低下について」、三点目は「コミセン化について」、以上3点であります。
町長	まずは1番目でございます。「庄内町の子育てについて」ということで説明をお願いします。
教育長	4月1日からご存じのとおり「こども家庭庁」が発足し、「子ども基本法」も施行されます。基本的施策には、主なものとしては、一つ目は子どもの意見は施策に反映するという。二つ目は行政の各担当相互の連携の確保。三つ目としては、施策の充実及び財政上の措置などが基本の柱になっております。そこで庄内町の子どもたちにも教育環境ということで、一部虐待であったり

DV であつたり、または不登校、またはいじめなど家庭や学校、地域で起きている課題がございます。そこで、私は三つの視点で子どもたちが楽しく学びに集中できる環境づくりと、庄内町で力を入れている子育ての支援について考えてみました。一点目は「令和4年アンケート調査結果考察」の12ページをお開きください。その小学校の保護者のアンケートの中にこう書いてありました。「庄内町は教育に力を入れているか。の質問をよくされますが、逆にどのように力を入れているのか聞きたいです。他校と変わりがないように思いますが、子育ての町というのも何がというふうに思います。アンケートを書いて何か変わったこと、変えたことなどあるのでしょうか。」という記載やら、また13ページには「庄内町の教育には、どのようなことに特化したいのか保護者の方にアピールしてほしいです。そうすれば、理解しやすいし改めて子育てを頑張っていこうという気持ちになれるので、よろしくお願いします。」というような小学校の保護者から声としてありました。一つ目は、一生懸命、庄内町の職員も頑張っております。その庄内町の子育て施策について周知、理解のために情報発信の強化が必要なのではないかと思います。二点目は、「教育に力をいれてもらっていてとてもありがたいですが、行政の連携が不足だと思っています。もう少し、教育委員会や子育て応援課や幼稚園の連携を密接にしてもらいたい。」という声とか、または、教職員のアンケートにある幼稚園の教職員からの声でした。園外保育（特に雨天時）、「こっころ」を活用できるようにしてほしい。三川、遊佐など町内の園は優先的に受け入れている。」というようなこともありました。そういうこともあるとこのアンケートから知ることができました。私もいろいろな資料を見てみると、私が学校にいた頃は子どもの状況は結構見えるのですが、根本にある家庭環境はなかなか見えないということが多かったと思います。一方、行政側に回って家庭状況はある程度推定できるけれども、子どもの状況が見えない。というような状況も以前より多くなっていると自分でも思っています。ですので、二つ目としては、連携協力などいろいろありますが、問題解決型の連携協力からいろいろな未然防止、または改善していく連携協力体制というものが必要なのではないかなと感じました。三点目、「学校はいろいろなことを相談はしやすいですが解決まで結び付かないというか、再発防止策が徹底されているようには思えない。学校だけで解決できない部分も多いと思うので町がもっと支援する形をつくるべきだと思う。町の組織があるだけでは何の意味ももたないと思うし、問題が起きた時に町ぐるみで対応してほしい。」というようなご意見がありました。「地方自治体における子ども施策に対する連携体制の事例把握調査」という、令和4年9月に内閣府こども家庭庁設立準備室で行った調査を拝読しました。各自治体で抱えている課題として、一つは「子育ての窓口が分散されていてわかりにくい。」という声が多くあったというデータがありました。また、行政側での各課での情報共有しにくい現状もあるというような調査結果も載っておりまして。子どものことはここというような、町民がわかりやすく、相談しやすいワンストップ窓口を実現した自治体もいくつか事例が載ってありました。それが先進的な例ではありますが、三つ目思うことは、今後、庄内町にあった町民または保護者が喜ぶ子育て支援の総合的、または一体的に提供できる体制の整備とか、組織の見直し等がこの4月1日から大きく国も体制が変わることに対して考えていました。そういったことで子育て日本一ということ掲げながら、子どもたちが楽しく学び、町長からもありましたが笑顔、または子どもに合わせて楽しい場ということもありました。そんなことで、各委員

	の忌憚のないご意見を聞かせていただけたらと思ひまして、私の方から問題提起をさせていただきました。以上です。
町長	三点に分けて「子育て日本一」といっているが情報発信力がなかなか足りないのではないかと、各課の連携について、とくに「こころ」の幼稚園利用についてという話がありました。三点目は、窓口が分散されているのではないかと、ワンストップサービスにつながる、あるいは、形だけあっても課題解決にはならないのではないかと、情報共有の必要性云々ということがありましたけども、皆様方からご意見をいただければ、そう思っているとか、もっとこういうものがあるよというようなことも含めていかがでしょうか。
飯淵委員	今、教育長から話があった子どもの窓口を一本化することは国の縦割り組織からするとすごく先進的な、革新的なことだと思います。是非、町民にはわかりやすい、例えば子ども課、成人課、高齢者課という言葉が悪いような気がしますけども、そのような窓口をつくって、「自分はここへ行けばいいのかな」というような窓口を町としてつくっていただければいいのかなと思っています。わかりやすくしていただければいいと思います。先ほどのアンケートにもありましたけども、アンケートにこうしてほしいと訴えを書けば全部反映されるものではないとわかっていただければいいのですけども、それをわかっていない人もいます。毎回書いているのに反映されないとか、予算に全て反映させるわけにはいかないとは思いますが、優先事項をつけてわかりやすい行政を町民、特に子どもたちや保護者に見せていくのが重要なのではないかなと思います。
町長	窓口ということでどうですか。令和4年度と5年度で変わる部分も若干説明してもらったほうがいいのではないですか。
総務課長	事務機構の関係なのですが、令和5年度については、保健福祉課所管の母子保健を子育て応援課へ移行するという事になっております。妊娠期から子育て全般までというところを子育て応援課を中心に切れ目のない支援をやっていくという体制に変えるということで、こども家庭庁の設立に伴って町の方も受け皿ということで変わっていくと。ただ、今後問題になっているところとしては幼稚園もどのように入っていくか、それから、学校もどのように入っていくかというのは、教育委員会との調整が必要ということで、第一歩として令和5年度は、子育て応援課を充実し一連の切れ目のない支援になっていきます。
町長	子育て支援のパンフレットもランドセル贈呈式のとき配っていますが、庄内町の子育て施策というところで、その辺の情報発信についても内部でよりわかりやすいように整理させていただきたいと思います。
太田委員	高校生の引きこもりをお持ちのお母さんのお友達のお話で、高校生の引きこもりについて、どこに相談したらいいかわからなくてというお話がありました。子育ての相談については1階の子育て支援センターに多くの相談がきているということでしたが、高校生くらいのお子さんの相談というのは、ここで相談をもらったことはないという事でした。子どもというよりは中学生くらいまでかなと考えている保護者が多い中で、高校生に対してもいろんな支援を町が行っているし、高校生もその中に入らるだろうと思います。令和5年は子育て応援課というような話がありましたけど、窓口一本で、例えば「子育て支援センターの方に相談してくれば、助けてもらえるようなところとつ

	なしますよ」というような形で、そのところを知らなかったのどこにも相談できなかったということだったと思いました。PR していくことは大事だったのと、以前、村山市長さんが「笑点」で着るような着物を着て、自分のところの子育て支援を座布団に見立てて、「出生祝いに、はい」、それから「入学祝いに、はい」と座布団5枚程度、その上に最後に市長さんが座って、「村山市はこんなに支援が厚いので是非どうぞ」というふうなものを見たことがあって、庄内町は多くのことをしているけど、なかなかPR できない。私は常々、学校の中に対しての支援が必要な子どもたちに対しての町の支援というのがとても充実していると思いますが、そのことを知らない保護者の方、知らない町民の方がたくさんいらっしゃるって、庄内町はどんな支援をして、ランドセルを無償で、ふるさとCMでも「ランドセル、タダでもらえるよ」とやっているお子さんがいますけど、あれはタダでもらえるのではなくて、「お祝いでランドセルをいただきました」というふうなそんな言い方の方がずっといいと思いながら見ているのですけど。町の支援を何かの形でわかりやすくPR していくことが、庄内町っていい町だなと思ってもらえる一歩かなと思っていました。
町長	高校生も子育て応援課でいいですね。
総務課長	子育てには高校生までが該当します。ただ、やはり年代的なことを考えれば、大人に近いので、社会福祉協議会に引きこもり対策を町が委託しています。窓口はどこであれ誘導できると思いますので、相談は子育て応援課でいいと思います。行きつくところは、社会福祉協議会によって支援がされると思います。
教育長	高校生の引きこもりということで、現場にいるときは、中学校を卒業してどうするかと保護者が非常に不安に思っていました。中学校を卒業してからも、知り合いの先生に相談して、そこから教育委員会を通じてつないでもらう。やはり、窓口がPRして、「ここにいくところだ」ということをわかりやすくすることが大切だと現場にいるときは感じていました。そういった現場からの声を話題提供させていただいて、皆様からご意見いただきたいところです。高校生も含めて連携して支援していく体制にすると、保護者としても助かると思います。
町長	令和5年度、高校生までの医療費の無料化は10月からの予定で、令和6年度以降は4月からということにはなります。それと、チャイルドラインという電話子ども相談室の件にも私も少し関わっているのですが、山形県では年間1万件の電話がきます。高校生の比率が約2割弱と聞いております。圧倒的に女の子の方が多いです。残念ながら1万件のうち、とれているのが3割から4割なので、それがまだ足りていない状況にはあります。いのちの電話の話もありましたけども、なかなかその辺、そのボランティア的な活動なので難しいところではありますが、先ほどの社会福祉協議会、あるいは、発達障害の児童のお子さんたちの関連についても、南部定住自立圏の方でも一緒に連携強化しよう、相互利用しようということでもありますとか、あるいは、北部の方は、やまなし学園さんというようなことも含めてですね、また、一歩進める形でやらせていただきたいというふうに思っておりますので、いずれにしても、個々のケースバイケースが全然状況が多様化していて違うということ、あるいは、家庭環境も両親がいる場合、いない場合、母子家庭、父子家庭、あるいは、そうでもない、おじいさん、おばあさんという場合もありますので、そんな状況の中

	でいろんな障害をもっている方もいらっしゃると思いますので、どこまで寄り添っていけるのかということの対応が必要だと思っております。加配についても特別支援学級が 14 人から 15 人ということで 1 人増えますし、幼稚園についても 4 名プラス産休の方がいるので、実質 5 名ということになるのですが、そんな形で手厚くできればということで翌年度予算は考えています。
梅木委員	特に高校生の場合は本当に容易ではない、親御さんも大変だろうし、学校の先生も大変だろうと思います。窓口に来た場合にどうするかというのが課題になるのかなという感じがします。そういう体制が整えられているということは、今のこれからの社会にとって非常に大切なことですし、その体制から一歩進んで専門的な方からの指導とか、それからしかるべき人を紹介してもらって更正に向かわせるとか、そういったことが大切だと思います。われわれの時代とは全然違いますので、丁寧なサービス、指導が必要なのかなと感じます。
齊藤委員	PR 不足が一番あるかなと思っていて、とてもいいことをしているのだけど、「こんないいことをしていますよ」という発信が弱いところがあると思います。何かみんなに伝わるやり方で、例えば、県ではやまがた子育て応援パスポートがあり、それを見せると特典が受けられるようなものはあるけど、例えば、庄内町で子どもが生まれたときに何か、子育ての支援に関して網羅されている手帳みたいなものを母子手帳のほかに渡して、それを見せると庄内町で何か特典がつくとか、子どもがいる家ですぐわかるものがあるといいのかなと思います。
総務課長	今年度の予算で、子ども子育て支援金という国からの補助を受けながら、妊娠期から伴走型の支援、それから出産後の出産期からの支援という形で、母子保健が充実するのですが、その際、すべて面談ということが一つネックになっている、お互い面談をしながらいろいろ会話をして指導して、保健師とかかわっていくわけですが、その中でいろいろな情報提供ができると思っていますので、その中で PR をやっていけば、良いと思いますので、関係課に伝えていきたいと思っています。
飯淵委員	私も移住者ですけど、移住したときにそういうパンフレットとか冊子がありますよね。例えば、リフォームすると補助金を出してあげるよとか、補助金に関することなどが良くまとまっているような冊子を、母子手帳をもらいに来的时候ではなく、結婚するときから渡すといいのかなと感じたところです。
町長	移住定住も含めて HP ですぐわかるという感じが、まだ確立されていないので、他のいい事例もあるようなので、その辺はしっかりすぐこれがとか、家を建てるならどうか、あるいは、移住するならどうか、仕事探すならどうか、起業するならどうという、結婚、子育て支援もそうですけども、それぞれの分野ごとにもっとわかりやすくするような必要があると思いましたので参考にさせていただきます。
飯淵委員	移住のパンフレットも探すとき、HP から簡単には見つけれなかったもので、庄内町スペース移住とか入ると出てきて、こんなのあるんだと見たことがあるんですね。ただ、8 年前と今では、HP のつくりもだいぶ違うとは思いますが、見やすい、わかりやすいほうが良いと思います。
教育長	情報発信ということで、アイデアを出していただいて大変ありがたいと思います。
町長	次は齊藤委員からの若い世代のモラルの低下についてということで、お題をいただいておりますので説明をお願いします。

齊藤委員	最近どうしても小さいころから分かっているはずのことが、分かっていない世代が増えているような気がして、仲間同士でふざけるのはありでも、それを公にしているものかというものであり、仲間うちでもやってはいけないことのほうが多いだろうけど、何か感覚が違ってきている怖さを感じています。集団強盗の件もそうだし、頼まれてお金を出せ、バイトでそのようなことをしていいのかということも、どこかでモラルの欠如があるような気がして、それをどうやって今まで自然に身につけていたはずのものを、今からどうやって若い子たちに示していかなければならないのか考えて、それがわからなくて、果たして家庭教育で全部やっていけるのか、学校でももちろん道徳などでやっているけれど、それを全部叩きつけても足りないように感じていて、それをなんとか町としても学校、家庭以外何かもう一つ町全体で子どもを育てるといような姿勢を子育て日本一というものに足していくといいと思ひまして、子どもの自由を尊重するというのと躰をするというのが、子どもの自由を尊重するあまり、何も怒れないという指導でできていない親御さんがいるように見えます。それを何とか町全体でやっていけないかな。それをどうすれば良いかかわからないのですが、昔は近所にいた、子どもはいないけど悪いことをすると怒るおじちゃんとか、怖いおじいちゃんとかそういう人がいたのだけど、今はそういうのができない世の中になってしまっている気がして、あいさつただけで変なおじさんに声をかけられたというような不審者情報に流れてしまうような世の中なので難しいのですが、それを何とか町全体の意識を改革して、みんなで子育てをしていこう、子どもたちを支えていこうというアピールを何とか子育て日本一に組み込んで、町全体でみていけないか、怒られる機会を増やすというか、まず、みんなが子どもに遠慮しないで声をかけられる町にしていきたいと考えて、でもそれをどうすれば良いか難しくてわからないのですが、そういう希望的意見です。
飯判委員	親のモラルというのもありますが、先生のモラルも子どもたちはネット社会ですので、ネットで見ていると思います。この間も中学校の先生が盗撮していたとか、そういうのがあるからやっぱり大人を信頼できなくなってきているというがあるので、子どものモラルというよりも大人のモラルが低下しているから子どものモラルが低下してきていると思います。あと声掛けに関しては、私も近所のおじさんに「コラッ」ってよく怒られました。私が朝、除雪をしていて、「おはよう」とあいさつすれば返してくれるし、たまに午後以外に出て「お帰り」というと「ただいま」といつてくれます。悪いことしながら歩いていると「おいっ」というと多分何もしないで行ってしまう子どもたちがいると思うので、見守り隊というのは悪いことも見守っているというのが発信できれば良いのではないのでしょうか、子どもたちを守るというのは外敵から守るだけでなく、内部の子どもたち同士のいざこざも見てあげるような地域見守り隊があれば良いのではないかと思います。
教育長	見守り隊というお話がありましたが、現場にいた時も庄内町以外の町の人からよく言われたことは、庄内町の子どもたちは横断歩道を渡るとお辞儀する。これは他の市町村ではあまりないことなのです。学校で教えているのですかとよく聞かれたのですが、交通指導員の方々がお辞儀しているんですよ。毎朝私が見ていると、旗を出して渡している間にお辞儀しているんですよ。今朝も余目中学校の生徒が、止まったらちゃんとお辞儀してくれました。やはり大人のモラルの低下ということがありましたが、やはり、大人が手本だということでは庄内町として、もっと子育てということに対して、子どもということで

	はなくて大人が手本を示してというような部分をもっと押し出してもいいのかな、交通指導員は鑑だなというふうに思います。
太田委員	先ほどの定例会の中で、齊藤委員がご実家のほうでトイレ掃除のボランティア、読み聞かせだとか、いろんな形のボランティアや地域にお手伝いできる方いませんかというふうに、小学校の方で、給食のお手伝いできる方いませんかというようなボランティアを募っていたというお話があって、折角のコミュニティースクールなので、今までコロナに遠慮していたところを遠慮せずに地域の方をもっと学校に呼べるようになってきたかなと思います。そうすると例えば、学童にっている子どもたちは学童で大人たちと会う。放課後子ども教室であれば、そこで大人の方と会う。それから地域に帰ると、年に何回かの子ども会で大人と会う。まちセンに行けば、まちセンの大人と会うというふうに今でも結構大人と話をするときはあると思います。学童とか放課後子ども教室の中で、子どもって結構、「えっ」って思うような言葉づかいをすることがあって、いい子もいるけど言葉づかいが悪い子もいます。そういう時に、今のもう一回というような人もいて、子どもは人を見て言葉を選びます。それはそれで鋭いなあと思うのですが、そんなことを繰り返しながらずっと学ぶことが多いだろうなと思います。今学校には図書だとか読み聞かせとかで人が入っていますけど、もっといろんな面で学習のお手伝いとかいう面でも、どんどん地域の方を学校に入れるような形になっていけば、子どもたちが地域の方と接する機会が増えて、ちょっとモラルの向上にもつながるのかなと思いました。今の時代は、怒ると保護者の方からあっという間に情報が伝わりますので、とにかく地域の方と先生方と子どもたちをみんなで見守っていければと思いました。
梅木委員	先ほど、教育長からもお話ありましたが、大人が手本になるということを身に染みて感じております。そのとおりだと思いますが、この前もユーチューブでお寿司屋さんでなんかやった生徒がいましたが、ああいうことは、してはいけないことだということをあらゆる場面で教えられているはずなのですが、情報化社会の中で、子どもの活動範囲が広がっているというか、我々大人が見たことのないような施設だとか、関係する場所だとか、そういったものがあるということで、なかなか大人が手本になるという場面が少なくなり、難しい局面になっているということは確かだと思うのですが、やはり教育の中で教える、今太田委員が言いましたように地域の大人たちが子どもたちにいろんなことを教えるということが昔から続いてきたわけですね。決して、昔の話ではないわけですね。昔の話をするとそれは今言うなと言われる時代ですけども、それは昔から続いてきていることで、何とかまちづくりセンターなり、地域との広がり、子どもたちを含めたモラルの向上とか、そういったものをもっと会議の席で広げていければと思っています。
飯淵委員	お年寄りを学校に呼ぶという齊藤委員のご実家の方のボランティアはとてもいいことだと思います。人との関りが少なくなると、どんどん介護に近づくといわれているので、そのようにしてWin Winの関係で高齢者を引っ張り出すというのもいいと思います。新聞で、ひな人形を担いで家を回るといったのがありました。子どもたちが、独居老人の家を見て回って、年寄りを見守るから私たちのことも見守ってねという感じではないですけども、そういうふうにしてお互いに見守るといい仕組みになると思います。たしか第四まちづくりでそんなようなことをしていたと記憶していますが。

富山指導主事	コロナ禍前は四小でやっていました。
飯淵委員	これから5類になって、コロナ禍からの脱却ということを踏まえると、そういうこともできるかなと思います。高齢化になって独居老人もかなりの世帯数が庄内町にはあると聞いていますので、孤独死を防ぐというわけではないですけども、お互いに小さい世代と上の世代が密になれるような関係を作れば良いと思います。
町長	今の話にあったように子ども見守り隊が相互の関係でやっているという事例が、全国各地にいくつかあります。地域のボランティアだったり、親御さんだったりと一緒に子どもたちと一緒に楽しむとか、そういう環境づくりみたいなものを全体として盛り上げていけたらいいなというふうには思っていますので是非ともその後押しというか、皆さん方からも、うちは誰がどうという形でいろんなことが、まさに選択肢がいろいろあってですね、みんなで大人が変わるかという表現が昔ありましたけども、大人が変わってもというよりも、だから、それぞれが自分ごととして、あなたが変わればという標語じゃないですかというような、いつもその議論になると自分が変わらないと何も変わらないですよと子ども然り、大人然りというところを含めてですね、その辺の共有から始めていったらいいかなというふうに思います。
町長	今日もグランドゴルフ協会の総会に出席してきましたのですが、特に三学区は庄内総合高校も含めて小学校やグランドゴルフ協会とのつながりだとか、いろんなところで異年齢の皆さんが、相互に学べることを継続的にやられているので、それがモデルなのかなと思いましたし、積極的に関わっていける環境づくりを教育委員会も他の課も含めてよろしくお願いしたい。
教育長	学校教育の中では、庄内町の子どもたちが、ちょっと課題だなと思うことは、関わり合う力というか、他の子と関わる力が不足して、一つが挨拶であり、そして非常に課題だと思っているのが、聞く力と話す力は非常に落ちている。自分で自分の気持ちをなかなか話せない、表現できない、それから人の言うことを十分聞かないで自分勝手に判断してしまう。そういったところを来年度は学校教育のなかでも力を入れていこうということで、社会との積極的な交流と関わり合ううちからということで、学校教育の中でも力を入れていかなければと思っています。
町長	それでは3番目に移ります。コミセン化についてということで飯淵委員から出されておりますので、説明お願いいたします。
飯淵委員	公民館がコミセンになって約10カ月、私も狩川まちづくりセンターに関わっていますけども、コロナ禍でできないことがたくさんあり、例えば運動会もそうでした。この1年間で、できること、できないこと、多分コロナ禍の中でだいぶ制限があったとは思うのですが、これからの課題と反省等々があれば、逆にコミセンになったことで、ここがうまくいったようなことが吸い上げられているのであれば、いろんなことを教えていただきたい。それを来年、再来年に向けて、どういうことを我々教育委員会として主導していけばいいのかなと考えたところです。
社会教育課長	私としては、コミセンになったことによって皆さんがそれぞれ主体的に自分たちの地域をどうするかを考えてくださっていると思っています。今、計画策定の年ということで今年度、来年度を含めてビジョンを作成しているわけですが、その中でいろんな自分たちの地域の課題が上がってきていると思います。第三まちづくりセンターで放課後子ども教室をやろうということにな

	ったときに、いろんな話し合いをもったわけですけど、そのとき自分たちは子どもたちにどう接していいかわからないというようなことを話されました。自分たちでこんなことができるというような気がしないというようなことがありました。やはり、主体性をもって活動していくためには、いろんな学びが必要だと、わからないから前進できないし、町に対する不満にもなってしまうのかもしれませんが、なので、地域の教育力を上げていく、子どもたちを育てる、そういう地域になっていくということがすごく大事なことだなということが、私の中では課題として大きく受け止めたところなので、そういった意味では皆さんに研修の機会とかそういったことを社会教育課として提供していくということが重要なんじゃないかと思います。地域課題に関して自分たちがどう取り組んでいけばいいか、やっぱり自分ごととして、この課題を解決するために自分に何ができるのかっていうことを考えて実際に実行していく、そういう町民の方々になっていただけるようにサポートするのが社会教育課だと思っています。いろんな形でまちづくりセンターと関わっていきたいという思いですので、事業も、今度は一緒にやりましょうという声をどんどんかけていきたいなと思いますし、そういう信頼関係のもとで、まちづくりセンターからも声をかけてもらい、頼ってもらいたいと思います。
飯淵委員	実際にコミセン化をして5年とか10年以内の人から来てもらって、研修会とかっていうのはできないのでしょうか。県内だけじゃなくて、コミセン化の話がでたとき、いろんな地域の話聞いたと思いますが。
社会教育課長	計画策定にあたっては川西町などからきていただいて自分たちの活動の事例なんかも教えていただいているところですが、やはり行ってみると全然学びが違って、視察することによって得るものも大きいと思います。
飯淵委員	例えば、行くのもお金がかかることだと思うし、こういうところに行くなら補助金を出すよということをこっちから出してあげないといいにくいところだと思いますし、その事業策定についても昨年、今年と関りましたけども、皆さん、みんなで作れるからって夢がすごく大きいですね。おっしゃるとおり、どうやってやるのというのもあると思うので、そういうのをうまく導いてもらえればいいのかと思います。
社会教育課長	第四まちセンも次の計画を作る段階に入りましたが、色々なことを失敗したと思っていて、今度はこうしようという、それもやっぱり学びで、やってみないとわからない事が多くあり、夢が大きくていいと思うし、色々なことを経験するのが良いと思います。
太田委員	第四まちセンは計画訪問に行くたびに、あの学校の方たちは幸せだろうと思います。同じ町内にいろんなことに挑戦しているまちセンがあるのだから、真似するというか、あそこでいろいろ学べると思います。でも情報交換はする場はあるとお聞きしたので、私はそういうところからいっぱい学んで、遠くに行くのも良いのですが、まず近くにももっと目を向けて欲しいと常々思っていました。
社会教育課長	近すぎるというものもあるのかもしれませんが、視察にいくと常々思うことは、この人がいるからと思える人、リーダーの人に目を奪われてしまって、全体が見えなくなってしまうこともあります。身近なところで本当に同じ町民でこれだけでできているっていう参考になると思いますし、いろんな学び方はあると思うので、どれも否定するものではないと思います。
町長	今年度は、川北先生から第四まちセンで講演会をしてもらうので、他のまち

	センの役員の方から是非一緒に聞いていただきながら自分ごととして、川北さんの言い方であなたは何かできるのかという話からスタートします。あなたが町にどういうふうにかかわるのか、あなたの得意なものは何がありますかみたいな話も含めて、多分見え方がまただいぶ違ってくることになると思いますので是非ともそんなことも含めて広げてもらえればいいかなと思っていますし、「便利屋和合号」が何とか軌道に乗ってきて、他の学区からもやってもらえればいいかなと思っています。清川、立谷沢についても6年に向けて中身が詰まってきましたし、これから支所機能等についても整理をさせていただきながら、6年にはみんな同じような体制作りになればと思っていますので、逆にそちらはそちらでこういうふうにやったらというような逆のその情報共有なんかもしてもらえたらいいのかなと思っています。
梅木委員	まちづくりセンターの役割というのは、相当これから大事になってくるわけですね。例えば、文化の伝承だとか、高齢者を集めた催し物だとか、これからはまちづくりセンターが中心になってやっているということで、社会教育の場でもあるし、今走り出したばかりなので色々手探り状態で行事等をやっていると思うのでこれから色々話し合いの中でまちづくりセンターの情報交換、他県の色々な事例とかで、次第に地に足がつくようにカスタムされていくと思います。私も第二まちづくりセンターに関わっていますけども、本当にあのスタッフで事務局長、それか推進員と事務員の方で、あれで行事をやるわけですね、その中で自分たちだけではできませんので、必ず誰かに協力してくださいという依頼を出さなければいけない。各町内会の公民館主事さんとか、そこまでの段取りをあの人数でやっていくというようなこと、すごくあの場において感動して理事会に出席してきました。なんとか皆さんが協力してそれを続けられるように、子どものモラルもそうですし、伝承文化から培われてくるものだと思いますので、なんとか続けていくような形でまちづくりセンターがあってほしいと思っていますし、協力できるなら何でも協力したいというふうにして私自身は考えています。
齊藤委員	私も第一まちづくりセンターの青少年育成会議に参加してきましたのですが、やはり意見が出ないのです。こうした方がいいかな、ああした方がいいかなというのを気軽に声を出す人がいないっていうのは、やっぱり何をしたいかわからないっていうことが一番あると思って、事務局の方がわかっているので引っ張ってくれるのですが、その責務は大きいと思います。やはり人材なのかと思います。この生涯学習人材バンクっていうのはどういうものになるのですか。
社会教育課長	これは、講師をされたことがある方々を共有して、みんなでこういうことが学びたいというときに、紹介できるような仕組みで、なんでも助けてくれる人ということではないです。
町長	今年、運動会がそれぞれのまちづくりセンターで、やり方も含めて、それぞれにお任せしているので、町民運動会という形にはならないと思います。学校側ではそれに合わせてということになるのですか。
教育長	情報交換したところによると、親子運動会的な感じで実施したい学校もあります。
飯淵委員	前は旧狩川と清川、立谷沢とそれぞれ学校があったわけですけど、運動会が旧小学校区でやって、学校全体の運動会として行えなくて、子どもたちが一斉に走るという種目などがないので、コロナ禍で今の中学生は一回も運動会を

	やっていないので、そういうことで、狩川はしないということになっているそうです。
社会教育課長	町民運動会をするのは、一学区、四学区で、それ以外は、別日程のところもありますが、親子運動会としてやって、二学区は地域の人からも協力をいただいて、集落から何人とか決めてやるようでした。
町長	親子運動会は、結構あるということですか。
社会教育課長	一学区と四学区以外は、親子運動会のようです。
町長	いずれにしても、研修を含めて、情報共有して、みんなで自分事としてこの地域をなんとか、どう関われるのかという思いを共有することから始まるのだと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。
町長	いろんな形で自由な発言をしていただいて、この町っていいよねと皆さんから思っただけのことが一番大事だと思いますし、特に子どもたちがこれから何百年生きるために、よりよい町になってもらわないと困りますし、その辺のご意見を今後ともよろしくお願いしたいと思います。
教育長	いろいろな分野に渡って、社会教育、学校教育、そして、子育て、若い世代のことなどいろいろな話題が出たかと思います。情報発信というところは、もっとできそうだなという感触を得ることもできましたし、「子育て日本一」というには、大人がもっと関わる体制というのですか、社会教育も含めてやる必要があるなと感じました。今日のご意見を参考にしながら、また、来年度の教育事業に活かしていきたいと思います。どうもありがとうございました。
閉会	(午後4時25分)